

習志野市立第二中学校 技術・家庭科（技術）第1学年 シラバス

【学習の目標等】

- ・材料や加工の特性等の原理・法則と、材料の製造・加工方法等の基礎的な技術の仕組みについて理解する。
- ・技術に込められた問題解決の工夫について考える。
- ・技術を評価し、適切な選択と管理・運用の在り方や、新たな発想に基づく改良と応用について考える。
- ・製作・制作場面で使用する工具・機器や材料等について、図画工作科等の学習経験を踏まえるとともに、安全や健康に十分に配慮して選択すること。

【評価の観点及び内容、方法】

観点	内容	方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・主な材料や加工についての科学的な原理・法則を理解している。 ・材料の製造方法や成形方法などの基礎的な技術の仕組みを理解している。 ・製作に必要な図をかき、安全・適切な製作や検査・点検等をしている。 ・生活や社会に果たす役割や影響に基づいた材料と加工の技術の概念を理解している。 	ノート 作業工程での評価 作品 テスト
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・材料と加工の技術に込められた工夫を読み取る。 ・材料と加工の技術の見方・考え方を身に付けている。 ・材料と加工の技術の見方・考え方を働かせて、問題を見いだして課題を設定し解決している。 ・よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、材料と加工の技術を評価し、適切に選択、管理・運用したり、新たな発想に基づいて改良、応用したりする力を身に付けている。 	ノート 作品のレポート 作品 授業態度
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで材料と加工の技術と関わり、主体的に理解し、技能を身に付けようとしている。 ・自分なりの新しい考え方や捉え方によって、解決策を構想しようとする態度・自らの問題解決とその過程を振り返り、よりよいものとなるよう改善・修正しようとしている。 ・よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、材料と加工の技術を工夫し創造していこうとしている。 	授業態度 ノート 作品のレポート

【教科担任からのメッセージ】

(1) 技術・家庭科（技術分野）の学習について

技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を育成する。

(2) 授業の持ち物

教科書・ノート(技術用)・筆記用具・はさみ・のり

(3) 授業の進め方・学習のポイント

- ①積極的に授業に参加しよう。
- ②聞く・考える・発表する・書く・作業する、場面に応じてやるべきことに集中しよう。
- ③良い作品を作り上げるために、最後まで作業しよう。
- ④提出物は、期限を守って必ず出そう。
- ⑤周りの人と協力して、共に力を伸ばしていこう。

(4) 家庭学習について

その日授業で扱った内容は、その日のうちに振り返りをしておく必要があります。

【学習計画】（週時間数 前期 2 時間）

	題材・学習内容	学習のねらい
前期	<ul style="list-style-type: none"> ○ガイダンス ○身の周りの材料と加工の技術 ○木材、金属、プラスチックの特性 ○材料に適した加工方法 ○丈夫な製品を作るために ○材料と加工の技術の工夫を読み取ろう ○問題を発見し、課題を設定しよう ○製作品を構想し、設計しよう ○製作の計画を立てよう ○作業手順を考えて製作をしよう ○問題解決の評価、改善修正 	<ul style="list-style-type: none"> ○3年間の学習内容を確認し、技術分野の学習を生かして、3年後にできるようになっていたことを内容ごとにまとめることができる。 ○身の回りの製品に使われている材料と加工の技術について調べることができる。 ○木材、金属、プラスチックなどの特性と特性を生かした利用方法について理解している。 ○工具や機器を適切に選択し、簡な製作品を製作できる技能を身に付けている。 ○身の回りの製品を丈夫にする方法を調べる活動などを通して、構造と部材を丈夫にする方法について理解している。 ○身近な製品の問題解決の工夫などから、「技術の見方・考え方」について気付いたことをまとめることができる。 ○発見した問題を解決するための課題を設定することができる。 ○課題を解決するために、使用目的や使用条件に合わせて、製作品の構想を具体化することができる。 ○製品に必要な図を基に、部品片、材料と作図を作成し、製作に必要な材料を準備することができる。 ○安全・適切な製作や検査・修正をすることができる技能を身に付ける。 ○材料と加工の技術による問題解決を振り返り、解決結果及び解決過程を評価し、改善・修正する方法について考える。